

6月28日(金)第174回定例会が日本規格協会東北支部において開催された。参加者は16名であった。事務的内容が検討された後、以下の事例が紹介・検討された。

(1)ポジティブな空気を作り出す為のまじめな雑談 宇井友成(アルプス電気株) 社内で品質工学の全社展開を始めてから10年目となる。現時点で品質工学が業務の中で使われ成果がでてきているものの今後どうなるかについては見当がつかない。企業を取り巻く環境は変化するものである。その変化があっても持ちこたえるようにするには、システムに落とすこととともに人材確保が大事である。また、品質工学は効率的にシステムを評価する側面と、考える技術者を育む側面があるように思う。相互理解の醸成を目的に行い効果が出ている二つの施策について紹介があった。

(2)秋田県内におけるQE推進 竹花 末起一(TDK-EPC(株)) 秋田県における品質工学会評議員として、県内における学術および研究機関および県内企業における、品質工学浸透度の状況を調査した結果が報告された。

(3)帯電量分布評価尺度の検討 武田 布千雄(東北リコー株) 複写機部品の安定性評価指標の改定に関する検討事例。比率に関する分布データとして議論・評価されていた重要な特性を、率構成の元となる二つの物理量そのものを使って評価する方法を検討した内容であった。

(4)直交実験結果の少し違った見方 連立方程式としての説明 武田 布千雄(東北リコー株)直交実験結果の解析過程を、同じ因子の同じ水準に関する結果の総和を求めるやり方で社内教育してきたが、直交性が上手く理解できていないのか、消化不良を訴える人が必ず出ていた。このため、彼らが保有している知識とリンクさせて理解してもらうための方法について。

(5)MT法における多重共線性回避法 坂川 義満(NECTーキン株) MT法(逆行列法)において、通常は相関係数1に近く異常時のみ相関が崩れる場合、多重共線性が問題になる。これを回避する実用的近似計算法が紹介された。

(8)QEアンケート集計結果 清水一浩(セイコーインスツル株) セイコーインスツルME事業部で行った「QEアンケート」の集計結果について説明があった。有効回答率67%、ポジティブ思考的な回答が半数以上だったことは思いのほか良かった。マネージャーレベルは好意的、担当レベルでは実務未経験者が好意的も経験者はネガティブな意見が目立った。

(9)マイクロ電池の寿命に関する機能性評価結果とその後について 清水一浩(セイコーインスツル株) マイクロ二次電池の充放電特性において、機能性評価で良好であった新製品の加速試験合格率が、ある時期を境に変化した状況について説明があった。

議事録:阿部英明(セイコーインスツル株)